

大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）中間評価結果表

大 学 名	東京大学
整理番号	r - 4
事 業 名	自然科学と社会基盤学の連携による日露学生交流プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>本事業は、先端基礎科学分野の教育・研究の緊密な協力関係を構築することによって、将来の日本とロシアの連携の要となる若手人材を育成することを目的としており、ロシアの2大学（モスクワ大学、サンクトペテルブルグ大学）との大学間協定に基づく短期・長期のプログラムにおいて、学生の派遣、受入及び教員の交流が戦略的に進められている。</p> <p>交流プログラムの実施にあたり、ロシア側の要望や参加学生の意見を迅速に交流プログラムの構築や改善に役立てるなど柔軟な対応がなされている点が評価できる。また、シンポジウムやワークショップの開催など教員の交流も積極的に行われている。</p> <p>単位互換を伴う交流については、工学系研究科社会基盤学専攻とサンクトペテルブルグ大学マネジメントスクール間で成績評価や単位認定に関する課題の調整を行い、長期派遣・受入の交流基盤が整ったことから、今後の展開に期待がもてる。</p> <p>事業の運営にあたっては、学内に STEPS オフィスを設置するとともに、モスクワ大学、サンクトペテルブルグ大学双方にも STEPS プログラム担当者を配置することで、組織的・継続的な連絡体制が構築されており、ロシア人学生、日本人学生双方に対し履修面・学習面・生活面にわたるサポートや情報の提供など、学生への支援体制の充実が図られている。</p> <p>一方で、中間評価までの派遣・受入学生数が数値目標を下回っている点については、交流が本格化する平成28年度には交流学生数の増加傾向は認められるものの、目標達成に向けてより有効な対策を講じることが必要である。また、ロシアにおけるインターンシップ制度の構築や、外部評価の体制（アドバイザー・ボード）の整備など、実施に遅れがみられる点については、早急に対策の検討を進め、取組を強化する必要がある。</p>	